

《Ⅶ 社会活動》

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取り組む予定かを記述して下さい。

本学では、地域社会への貢献を教育理念にしており、その具体的な社会的活動として特に地域社会への貢献として、教育・研究の成果を還元するPTA・高校生のための「公開講座」や生涯学習に対応する「出前講座」を行っている（実施件数は、(3)を参照）。また、地域自治体の依頼により、各自治体の組織する各種委員会に委員を派遣している（派遣数は、(4)を参照）。これらの取組みは、単に本学の教育・研究の成果を地域社会に還元するだけでなく、そこからのフィードバックを受け、教育・研究の内容を鍛えていくことに繋がり、相乗効果をあげている。

今後とも、できる限り地域の要望に応えるような社会活動を展開していきたいと考えている。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

本学では、社会人の受け入れについては《V学生の支援》の【多様な学生に対する支援について】で述べたとおりの状況である。生涯学習を支援するということは、地域社会への貢献という本学の教育理念に合致しており、今後とも社会人を受け入れていきたいと考えている。

(3) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本学では、地域社会に向けた公開講座として、盛岡大学と合同で「盛岡大学・盛岡大学短期大学部出張公開講座」（一般向け）と「高校生と高校PTAのための出張講座」を開設している。それぞれの平成18年度～20年度の実績は以下の通りである。

年 度	出張公開講座(一般向け)		出 張 講 座		備 考
	食物栄養科	幼児教育科	食物栄養科	幼児教育科	
平成18年度	1	4	2	3	
平成19年度	2	3	5	3	
平成20年度	3	2	1	4	

単位：件

また、平成14年度に、岩手県陸前高田市と協定書を締結し、陸前高田市及び近郊の市民向けの公開講座を実施している。なお、平成19年度までは、原則的に本学の授業科目を公開講座用にアレンジして実施してきたが、陸前高田市との協議により、平成20年度からは、市民の興味あるテーマで公開講座を実施することとした。具体的には、以下の通りである。

- 平成18年度 講座：「幼児教育相談－家族をめぐって－」 90分授業12回
平成19年度 講座：「応用栄養学－食とアレルギー－」 90分授業12回
平成20年度 テーマ：「発達障がいのある子どもたちへ－親や教師のできること－」
90分授業4回
「子どもの集中力を上げる魔法の朝食とは？」 90分4回

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)に短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

本学では、地域社会への貢献の一環として、自治体の各種委員会、教育機関等やその他本学と関係の深い各種団体の依頼を受け、講師及び委員等として、平成18年度は11名の教員がおよそ46の会議・講演(スポーツの指導は除く)に出席した。同じく平成19年度は12名の教員が60以上の会議・講演に、平成20年度は12名の教員が50以上の会議・講演に出席した。

【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等の状況を記述して下さい。

地域の各種福祉施設、幼稚園、保育所等からのボランティアの依頼に応じて、毎年多くの学生が参加し実績を残している。特に、平成18年度から「岩手県知的障害養護学校長会」から依頼を受けて「T r yスポーツ」というイベントに多数の学生が参加し、好評を得ている。また、幼児教育科の多くの学生が、春休みなどの長期休暇期間を利用して、保育所や幼稚園などでボランティア活動を行っている。以下に、過去3年間に行われたボランティア活動の主なものを紹介する。

- ・岩手県知的障害養護学校長会「T r yスポーツ」支援ボランティア(平成18年～20年)
幼児教育科の学生が毎年約30名参加。
- ・社会福祉法人いきいき牧場「春祭り」支援ボランティア(平成18年・19年)
幼児教育科の学生が約10名が参加。
- ・社会福祉法人のぞみ会希望ヶ丘学園「夏祭り」・「クリスマス会」支援ボランティア(平成18)及び「学園祭」支援ボランティア(平成20年)

幼児教育科数名の学生が参加。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学では、主に幼児教育科の学生が、地域社会から要請のあったボランティア活動に参加している。食物栄養科の学生の中にもボランティア活動を希望する学生がいるが、あまり実績がない。ボランティア活動は、学生が地域社会で活動し、学校の中では得られない貴重な体験をする場である。依頼のあったボランティア活動への参加の奨励、また、前述したように長期休みにできるだけ幼稚園や保育所等でボランティア活動を行うよう働きかけている。

但し、現在、ボランティア活動について特別な部署を設けて対応していないため、十分に学生のボランティア活動の状況が把握できていない。幼児教育科の数名の教員が、まさにボランティアで対応している現状である。将来的には、担当部署を組織し、ボランティア活動の後押しをしていきたいと考えている。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

本学と姉妹校である、カモーンソン大学（カナダ、ビクトリア市）に毎年ホームステイを中心とした英語研修を実施している。研修期間は約3週間で、2月下旬から3月上旬に行っている。なお、この研修は盛岡大学と合同で実施され、平成18年度と平成19年にそれぞれ2名が参加した。平成20年度は、希望者がいなかった。

(2) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

前述したように、平成18年度と19年度に、姉妹校のカモーンソン大学に学生を派遣した実績がある。なお、盛岡大学では毎年カモーンソン大学から、数名の交換留学生を受け入ると留学生の派遣を行っているが、本学では現在までそのような実績はない。

また、平成19年度に、比較文化研究センターで海外から講師を招いて、講演を行った。

(3) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

平成18年度は、2名の教員が国際学会に参加し、研究発表等を行った。平成19年度は、国際学会に2名の教員が参加し研究発表を、研究で1名の教員がデンマークに調査に出かけた。平成20年度は、4名の教員が国際学会に参加し研究発表を、5名の教員が国際会議に参加し研修を、1名が研究調査に出かけた。

本学では、平成20年度から、それまで凍結してきた海外留学制度規程等の見直しに着手し、平成21年度内に成案をまとめ教職員の留学（国内も含む）支援を進める予定である。

【特記事項について】

- | |
|---|
| <p>(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。</p> |
|---|

本学では、盛岡大学附属高校の教員コース「子ども学」（2年次通年）という授業に、平成19年度から幼児教育科の専任教員を派遣し、高大連携を諮っている。